

[野村]

7月6日の記録の中に、J R Tとの打ち合わせの中で、自然・・・読み上げましょうか？これね・・・自然科学館・・・あれどこだったかな。

[総務課坂野]

すいません、ちょっと、私である必要があるんでしょうか？

[野村]

管財の人は、「坂野さんに（主幹に、あなたが主幹だから）、あなたに報告する必要がある」と言っていましたよ。

[総務課坂野]

管財の内容なんですか？

[野村]

管財の内容ですよ、管財の内容から。あのね、僕が聞いているのは、このまま二つだけ話をしたいんですけどね。一つはね、ちょっと待って、一つは、その記録の中で、あれいや

[総務課坂野]

まとまってないんだったら・・・

[野村]

あった。これ、町長の言葉として、そのまま読み上げます。「自然展示館の施設の利用も前向きに考えてくれて、ありがたいと思っている」「議会に報告してあります」「やり方によって利用価値があるのなら、使ってもらえるように協議を進めていきたい」と。つまり、町長から、「これ使ってくれよ」と、J R Tと話をして、向こうは検討して、もう議会にも、「借りてくれそうな話になってるから」と・・・これが、全くスキー場と一緒に、希少なものをどう上手に使うとかじゃなくて、もう利用する価値もないようなものだから、少しでも使ってもらえればありがたいという程度の"処分"を、町長が明言してるんです。もう何年も前にね。

[総務課坂野]

ええ。

[野村]

あなた方は、一切・・・これは、たまたま、自然公園法違反の処理のために、「これは出しても大丈夫だ」と、「ちゃんと処理したってことを出しておこう」ということで出したんでしょう。でも、あなた方は何一つ、穏当な打ち合わせの記録出してないからね。

こんなの疑われて当たり前で、これが一つ。次に・・・議会も通して、話を進めるんじゃないかというのが一つ。つまり、出来レースで決まっていながら、一応、表向きには、公募した形を取るためにやってる。だから、あんな杜撰な情報で「（公募）やりました」という体裁を取り繕っているに過ぎないんですよ。あきれるほどですよ。

もう一つは、同じような施設で足寄町は、今年、町営施設をオープンしました。オンネトーの、昔っからある、知る人ぞ知る、綺麗な温泉ですよ。すごいっちゃいけどね。蘭越町に比べれば、はるかに、来客数も少ない温泉施設があるんです。素朴な温泉が。そのそばに、自然科学館を作って、民間に運営を委託してる。賃貸じゃなくて、運営委託、当然、町がコントロールするため。賃貸ってのは最終手段なんです。貸してしまったら、どうにもならないんですね。

僕が言ってる駐車公園の中の賃貸がいいケースですよ。あなた方は、そういう色んな、町がコントロール手段があるにもかかわらず、価値がないものとして、町長が賃貸を選択して、もう内々で話を進めている。にも関わらず、表向きには、公募の体裁を取り繕っている、と言われて、しょうがないやり方をしてる。

僕が言っても、あなた方は、無視して続けるか、ちょっと考えるか、分分かりませんけども。僕は、公有財産の適正利用の観点から、財務的に、内容を明らかにしたいんです。だから、管財に対して、面積だとか、いろいろ計算させて、本当にあなた方が公募するんだったら。このぐらいするのが当たり前ですよ、という内容を、まとめようと思います。せめて、足寄町と同程度に、これね、足寄町の情報を見て、

どの程度やってるか。ひどいよ、蘭越町のやつは。

[総務課坂野]

それも含めて、観光の方に伝えますので。

[野村]

これね、伝えるじゃなくて、管財？カンコウ・・・カンコウって何なんですか？

[総務課坂野]

はい。

[野村]

カンコーって何の略ですか。

[総務課坂野]

周辺観光の観光のこと。

いや、観光なんか無理だよ。無理って言ったら悪いけど、

[総務課坂野]

そんな無理とか言って・・・

[野村]

あんな・・・総務課の工藤さんとか・・・あの人と、まったく一緒だよ。「（上から言われて、その通りやって、）何が悪いんだ」だよ。僕、ここまで断言するのは、記録取ってるから、全部。呆れるほどの、酷いのがあるよ。呆れるほど酷いのが。観光にも。もう十分、僕は伝えたから、彼らがどう動くか分からないけど、少しはプライドを持って対応するかどうか、分からないよ、多分。僕、言ったことよりも、自分たちのプライドよりも、「副町長・副町長がこういった」ということを優先するでしょう、多分、サラリーマンだから。呆れるほどのサラリーマン。根拠を持って、言ってるよ、呆れるほどの対応だったよ。僕、観光はあんまり期待してないんです。管財の方に、せめて・・・いいんですよ、副町長が、僕が聞きたいことに対して答えてくれるんだったら。結局、僕もコソッと裏で、警察に相談したりだとか、チラシ作ってやるのも、もう疲れちゃったんで、あなた方がちゃんと答える気があ

るんだったら、事前にまとめますよ。

[総務課坂野]

ちょっと、私のことで悪いんですけれども、今選挙期間中です

[野村]

そうですね。確かにおっしゃる通りです。今日は、ここまでにします。でも、これは町長にも話をして、「こういうことを言ってる」と、「どうするんですか?」、「このまま進めるんですか?」と。僕も、このまま進めさせて、後になって、やるやり方もあるんですよ。

今、いろいろ・・・刑事的なものでは・・・時間の問題も出てくるから、そういう手法も考えてる。でも、その上で、ぶっちゃけてるのは、何がいいか、僕も分かんなくなったし。あなた方にも、少しは自浄作用というのがあるんだったら・・・今のところ全くないですからね、全てにおいて。「少しは襟を正すかな」と思ったら、ゼロだよ、呆れるほどに。「少しは襟を正すかな?」という期待を込めて、今、僕は手の内を全部言ってるつもりなんです。それをあなた方が無視して、強行するんだったら、やればいいよ。「こういうふうにしてはどうですか?」ということを考えるんだったら、連絡くれればいいよ。僕は、多分、あなたが連絡くれなくても、突っ込むけどね。

[総務課坂野]

ええ。

[野村]

ちょっとここまでにしましょう。はい、ありがとうございました。お忙しいところ、失礼します。

[総務課坂野]

失礼します。